

鍼灸について



鍼灸が弱った体に活力を与えます。

古書に『未病治』という言葉が書かれています。『症状として体に現れる前に治す』という意味で予防医学の重要性を説いています。体の不調や、つらい症状を前もって治療することが大切です。



鍼灸医学の特徴

全身的な治療により経路『生体エネルギー』の調節によって副作用も少なく自己治癒力の増強を促して健康状態・疾病予防・病気の治療に効果を発揮します。最近では、西洋医学の補完・代替医療としてその効果を再認識されつつあります。



鍼灸の効果のしくみ

1. 総合的に鍼灸刺激が自律神経系、内分泌系、免疫系に作用して生体の恒常性の改善につながると言われています。
2. 鎮痛作用は、次の諸説があります。
 - ・ゲートコントロールセオリー 鍼刺激が脊髄で痛みを抑制します。
 - ・エンドルフィン 鍼刺激がモルヒネ様物質を生成し痛みを抑制します。
 - ・末梢神経遮断効果、鍼刺激が痛みの神経に伝わる興奮『インパルス』を遮断します。
 - ・経穴『ツボ』の刺激で、痛みを自覚する痛覚の閾値が上昇し結果的に痛みを抑制します。
 - ・血液循環改善 筋肉の緊張をゆるめて血液循環の改善と冷えをとります。



その他のご注意・参考として

1. 人によって鍼灸は、一時的にいろいろな症状が出てくることがあります。これを漢方『東洋医学』で瞑眩『めいげん』と言ってむしろ効果の現れる証拠とされています。
2. 治療後の入浴は、なるべくお控えください。2～3時間後であれば問題ありません。
3. 初診の方の次回の来院は、症状によりませんが、2～3日後をお勧めします。初診時の効果の確認と今後の刺激程度、治療計画を決めるためにも必要です。但し、翌日も続けた方が良いでしょう。
4. 一回で効果が全く認められない場合でもあきらめず治療を続けられることをお勧めします。身体が自然治癒力がゆっくりと機能して複数回の治療後に急に症状が改善されることがあります。